

私は、政清会を代表して、発議第6号核兵器禁止条約締結国会議へのオブザーバー参加を求める意見書について、反対の立場で討論させていただきます。

日本は世界で唯一の戦争被爆国であり、政府は核兵器禁止条約が目指す核兵器廃絶という目標を共有しています。

今、我が国の周辺では紛争にも進みかねない発言や行動が、ある国から起こされています。その中でも、核というキーワードが出てきているのは確かです。さらに、ロシアのウクライナ侵攻により、やはり核という言葉がキーワードになっていることも事実であり、大変心配な状況でございます。

核軍縮に取り組む上では、人道と安全保障の二つの観点を考慮することが重要であります。核兵器禁止条約では安全保障の観点が踏まえられていません。核兵器を直ちに違法化する条約に参加すれば、米国による核抑止力の正当性を損ない、国民の生命・財産を危険にさらすことを容認することになりかねず、日本の安全保障にとって問題を引き起こし得る可能性があると思われまます。

また核兵器条約は、現実に核兵器を保有する国だけでなく、日本と同様に核の脅威にさらされている非核兵器国からも支持は得られておらず、核軍縮に取り組む国際社会に分断をもたらしていた点も懸念されます。

よって、現時点での日本の現実的な取組の一つとして、唯一の同盟国である米国と信頼関係を基礎としつつ、核兵器を有する米国の抑止力を維持することが必要であると考えます。

以上のことから、核兵器禁止条約締結国会議へのオブザーバー参加を求める意見書に対して反対いたします。